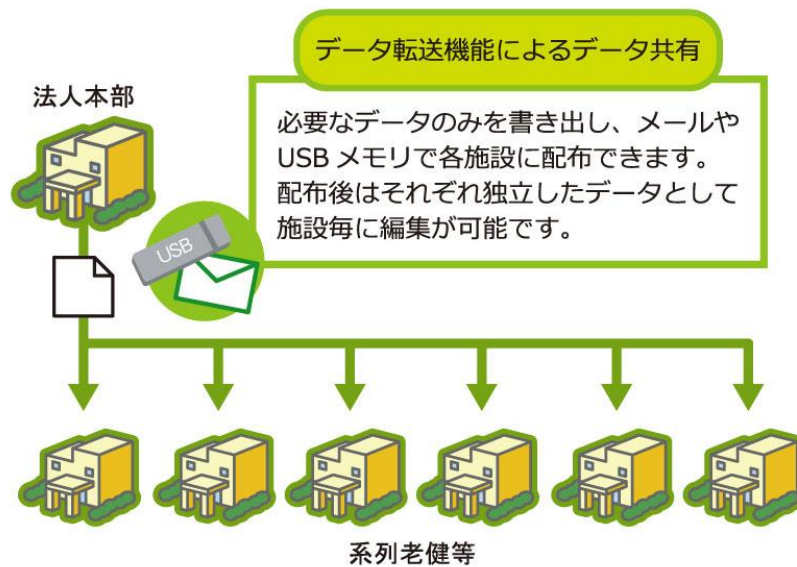
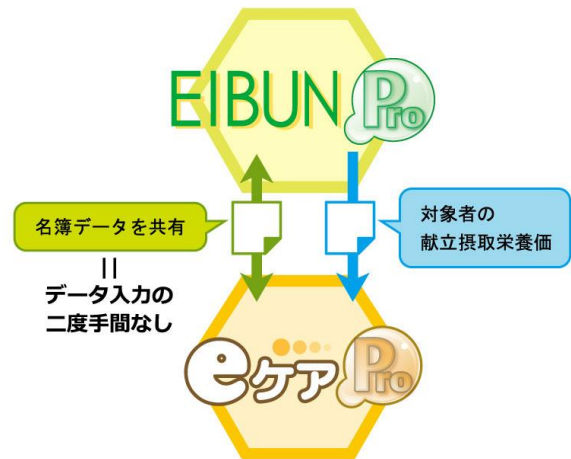


導入事例2・栄養計算ソフトと栄養ケア・マネジメントソフトの連携

- ・名簿データを双方のソフトで共有
- ・設定されている食種等の喫食設定に応じて、対応する献立栄養価を献立から読み込み

本製品と栄養ケア・マネジメントソフト「eケア」で名簿データ共有を行えます。

EIBUN が Pro または ProSP の場合、対象者の献立摂取栄養価を EIBUN から取り込むことが出来ます。



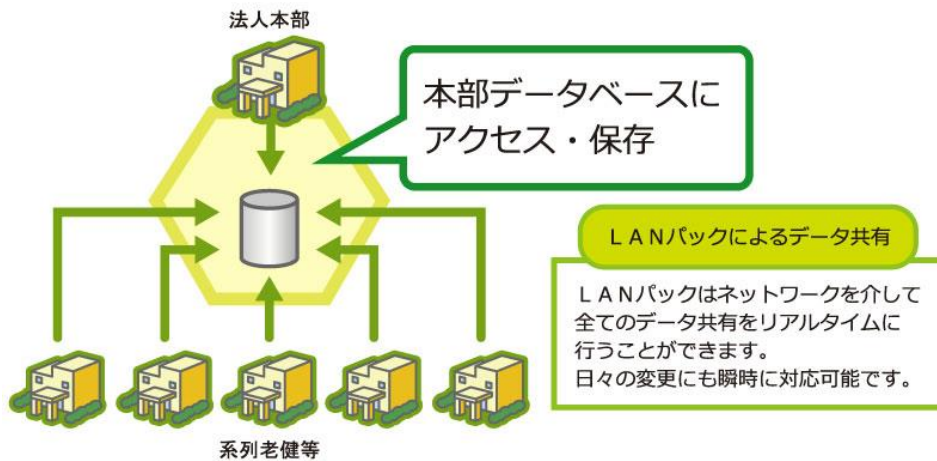
導入事例3・データ転送による系列施設への基本献立配信

- ・データ転送機能で必要なデータのみを共有
- ・転送データを取り込んだ後は各端末で自由に編集可能

データ転送を搭載した EIBUN で読み込むことが出来る食品・献立・料理カード・食数データの書き出しが行えます。

取り込んだデータは施設毎に編集が可能のため、基本献立の配信から各施設で変更・調理を行う場合などに最適です。

転送データはUSBメモリやメール、FTP転送などで送受信できます。



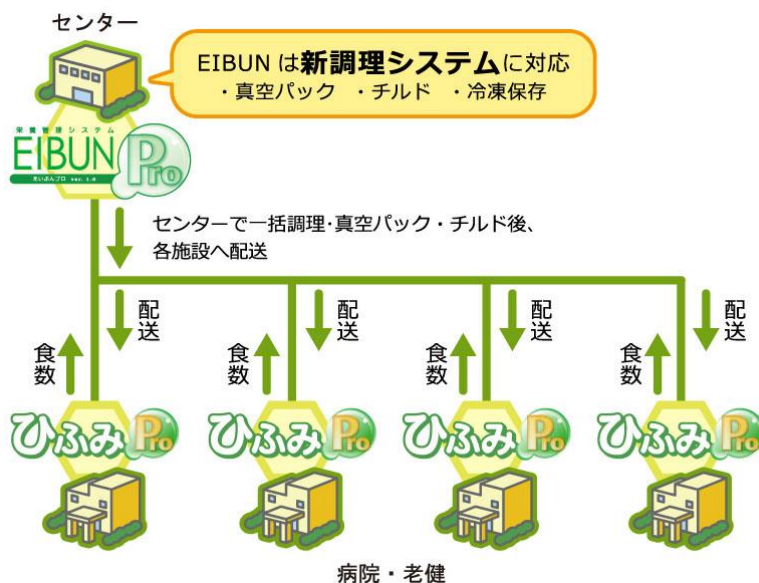
導入事例4・LANパックによる施設間データ共有

- ・メインとなるパソコンの EIBUN データベースを共有
- ・リアルタイムに反映し、データ共有に特別な操作は不要

LAN接続を利用し、マスタとなるパソコンの EIBUN データベースにアクセスして操作を行います。

全て同じデータベースへの保存となるため即時性に優れており、多施設間のまとめ発注も容易に行えます。

端末ごとに操作範囲を施設・食種単位で設定することができ、別ユーザーのみが操作する項目にはロックをかけられます。



導入事例5・新調理システムを業務に含むご利用例

- ・EIBUN Pro は新調理に対応
- ・食数・名簿データをひふみ Pro から読み込むことが可能

上位製品は新調理システム対応機能を搭載しております。

これにより各施設から食数データを入力してもらい、センターの EIBUN 上で必要量を集計。

調理～加工を行い各施設へ配送ということができます。

[食数機能をフォーカスした「ひふみ Pro/Lite シリーズ」もご用意しております。](#)